

平成20年度後学期 学生による授業評価アンケート調査（最終）  
「アンケート結果に応じて」

所属部局	人文学部		氏名	重近啓樹
講義コード	2315039010		講義名	アジア文明史Ⅱ
開講曜日	金曜日	5・6時限	専門科目	
授業回数	15回	休講回数	0回	補講回数 0回 受講登録者数 35人
成績評価に際し注意した事項				
レポートの内容・理解度、出席率				
報告内容				
<p>適度な人数による授業であり、熱心な受講生が多かったので、丁寧な授業展開が可能であった。問題・反省点としては、まず「教材の使い方が適切である」、「教員の声が聞き取りやすい」等の点で満足度が低かった。今後これらの点に注意するよう努めたい。</p> <p>一方、「授業を受けて知識・技術が身に付いた」、「授業の難易度は妥当である」、「学生の反応を確かめながら講義をしていた」「学生の質問・相談に応じる姿勢があった」等の点での評価が高かった。</p> <p>この授業では、中国の秦漢帝国時代を中心に、皇帝権を支えた官僚組織、中央・地方の行政組織、軍隊やその時代的变化などについて、可能なかぎり最近の研究成果や新史料を紹介しながら検討した。あまりなじみがなく、やや難解な内容と感じられた部分もあったかもしれない。そこで出来るだけ理解を容易にするため、史・資料や地図などをプリントし、ビジュアルで生き生きとした授業となるよう努めた。しかし配布資料が多くなり、その内容についての説明が十分でなく、駆け足になった。また出来るだけ多くの情報を伝えようとして、早口になりがちであった。</p> <p>毎回、授業上の問題点、内容の疑問点等について質問・意見カードを配布し、これらについて出来るだけ早く対応・改善するよう努めた。</p> <p>この秦漢時代は、伝統中国の原型が形成された時期であり、日本とも深い関係を持っている。従って東アジアのどの地域、時代を考察する場合でも、基礎的な教養として知っておくべき内容も多い。現在の日中間には問題も多いが、相互に不可欠の存在になっている。他の東アジア諸国と日本の関係も益々密接になっている。相互の正当な批判は重要であるが、同時に相互理解・歴史的背景、共存のあり方を考えることが重要である。今後とも主体的・積極的に学ぶ姿勢を期待したい。</p>				